

6-12

「お楽しみ測定表」を使った自立支援と介護予防の試み

利用者と多職種が共有して使える、わかり易い指標の作成と実施

高齢者の評価測定

自立支援と介護予防

通所介護施設 桜町高齢者在宅サービスセンター

作業療法士 石井晴美

センター長 三浦和行

東京都小金井市桜町1-9-5

他、センター職員一同

TEL : 042-381-0006

FAX : 042-387-2324

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

社会福祉法人聖ヨハネ会が1990年に開設した併設型のセンター(通所系利用者約60名/日の規模)。通所介護、訪問介護、訪問入浴、居宅介護支援の介護保険事業と通所型介護予防事業、地域包括支援センターを小金井市から受託実施している。

〈取り組んだ課題〉

- 介護保険開始とともに、老人保健法による機能訓練事業が終了の方向に進み、機能訓練事業が果たしてきた役割を、高齢者の心身機能の測定表「お楽しみ測定表」という形で引き継いだ。
- 職員間での測定表の内容検討とシステム化。
- 測定表の作成と検証、改訂版の作成
- 各種事業での「お楽しみ測定」の実施とまとめ。
- 地域の介護予防システムへの提案

〈具体的な取り組み〉

- 平成15年、機能訓練担当のOT、PTより高齢者の心身機能の全体像を簡潔に把握するための「お楽しみ測定表」が提案された。
- 職員間で内容の検討をし、測定表を電子化。測定には、特別な道具を使用せず、簡単に手作りできるもの考えた。又、1人の測定にかかる時間は20分程度、15人のグループでは1時間半程度でできるものとした。
- 職員間で「お楽しみ測定」研修を行い、お互いに試行した。
- 機能訓練事業とデイサービス利用者へ、①説明と測定、②測定結果の報告、③訓練計画の作成、④再測定と再評価を行った。
- 平成16年度、その結果から事業内容の検討、測定表の検証、改訂版の作成を行った。
- その他、介護予防教室、糖尿病教室、公民館活動など地域の様々な活動で「お楽しみ測定」を行い市民の自立支援と介護予防に役立てた。
- 平成17年度は、介護保険改定に向けて、行政への提言資料として、又、新システムを作り上げるためのツールとして「お楽しみ測定表」を使った。

〈活動の成果と評価〉

- 介護保険改訂後の基準にそった評価様式を作る際には、「お楽しみ測定表」をその一部に使うことで、誰にでも簡単に測定でき、その結果から機能訓練計画や介護計画が容易に立てられ、効果判定も出来るものができた。
- 多職種が働く場で、共通の指標を持つことで、利用者へのサービスに一定の方向性が共通認識されつつある。
- 他事業所も数ヶ所この測定表を使用。地域に広まることで、より多くの市民の介護予防に貢献できるのではないかと期待している。
- 平成17年度の介護予防マネジメント機能強化事業では、「おたっしや21」や「基本チェックリスト」の検証の比較ツールとしても使用し、行政を通して地域の他事業者へも介護保険改訂後の体制作りへの提案を行った。
- この3年間で、機能訓練事業では8回、デイでは3回の測定を行い、延べ700人程度が測定した。1人の利用者が2回、3回と、半年あるいは1年毎に測定することで、自身の心身機能の変化を知り、自分で注意すべき点に分かることで、効果的な介護予防に役立った。
- 介護予防教室や介護者教室などの単発の事業は、大よそ20回程度行い、300人程度の高齢者が参加。
- その他の地域の事業所では10回程度、200人程度が参加してくれた。

〈今後の課題〉

- 測定し効果判定に使うだけでなく、測定項目の意味を理解し、測定結果を分析し、事業内容を常日頃検討していくために、使いこなしていきたい。